

団体交渉で経営責任を追及

＜第5回団体交渉に望む交渉団＞



電機情報ユニオンは7月22日（火）に、第5回目となる会社との団体交渉を行いました。今回の交渉では、米半導体企業ウルフスピードの経営破綻にともなう多大な損失の経営責任を追及しました。

ルネサスは、S i Cのウェハーの安定供給を受けるため、ウルフスピードに対して約3000億円の預託金を拠出していました。しかし同社の経営破綻によって回収が困難となり、今年度の1～6月期は2350億円の損失を計上することとなりました。最終損益は1735億円の赤字となります。

交渉団は莫大な損失が純然たる経営判断に基づくことから、特に柴田CEOの経営責任を質しました。損失額は、今年見送った定期昇給に必要な金額（20億円程度と推定）と比べて桁違いに大きいだけに、定期昇給さえ見送った経営状況との比較から、相当な責任を問われて然るべきです。

第5回団体交渉を行いました

高崎工場はどうなるのか

会社はすでに、S i C事業の停止を公表しています。これにともなって、武蔵事業所などでも関連する部門のリストラがされていて、すでに6月で退職者も出ているとの報告もあります。特に心配されるのは、高崎工場の今後です。社外では工場自体の存続を危ぶむ声も聞きます。仮に高崎工場が閉鎖となれば、ルネサスのみならず地域の経済にとっても深刻な事態となります。今回の交渉には、群馬県労会議の小野里事務局長も出席されました。小野里事務局長は会社に対し、何も明らかにしないまま社内外の関係者を不安の渦中に据え置くのではなく、きちんと説明責任を果たすようにと求めました。

柴田CEOは説明責任を果たすべき

ウルフスピードの破綻から懸念されるのは、会社の経営判断が粗いのではないかという事です。少なくとも、莫大な損失を計上している以上、柴田CEOには、何が原因でそうなったのか、経営判断に問題は無かったのかを、社員に丁寧に説明する義務があります。ウルフスピードの経営破綻の原因は、借金による資金調達と、S i C市場の立ち上りの遅れがあると言われます。ならば、莫大な借金を背負っているルネサスの経営にも同様のリスクはあるのではないのでしょうか。

本件は損失の規模からして進退問題を問われるほどの事態です。担当の役員は辞めたのに柴田CEOが辞めないとしたら理由は何でしょうか。投資のイニシアチブに関しては、実は辞めた役員の方が中心だったからでしょうか。「柴田さんがCEOなのは名ばかりで、本当はリストラ担当の役員に過ぎないのではないか」という声もあります。CEOとしての説明責任を求めます。

ルネサス懇

＜発行者＞
ルネサス関連
労働者懇談会
(ルネサス懇)
意見と情報は、
〒142-0043
東京都品川区二葉
2-20-8 染野ビル
(電機労働者
懇談会気付)
(03) 6421-5323

電機・情報ユニオンへの相談は、

